

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第 43 回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
日 時	平成 31 年 1 月 23 日 (水) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 20 分	場 所	木津川市役所 第 2 北別館 2 階 会議室
出席者 (出席者…■) (欠席者…□)	委 員	<p>【学識経験者】</p> <p>■中川 大 (副会長)、 ■大庭 哲治委員</p> <p>【市民代表】</p> <p>■杉本 美保委員、 ■長野 博行委員、 ■福本 桂子委員、 ■神野 勝三郎委員、 ■大村 裕信委員、 ■平田 克子委員、 <input type="checkbox"/>行衛 満委員、 ■中島 英一委員</p> <p>【事業者】</p> <p>■梅澤 浩二委員 ※代理：鹿瀬 拓哉 (西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社総務企画課)、 ■山本 恒平委員、 ■山野 豊委員 ※代理：木村 一郎 (奈良交通株式会社乗合事業部統括課長)、 ■津田 秀夫委員 <input type="checkbox"/>足立 高広委員、 <input type="checkbox"/>大江 正泰委員、 <input type="checkbox"/>梅田 幹夫委員、 <input type="checkbox"/>加藤 隆委員、 <input type="checkbox"/>霜永 勝一委員</p> <p>【行政機関】</p> <p>■岩崎 靖彦委員 ※代理：戸田 辰司 (国土交通省近畿運輸局京都運輸支局首席運輸企画専門官)、 ■永見 晃之委員 ※代理：岩崎 一紀 (国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所計画課)、 ■岩田 高明委員、 ■山本 克委員、 <input type="checkbox"/>梅田 学委員、 <input type="checkbox"/>河井 規子会長、 <input type="checkbox"/>田中 達男委員、 ■若狭 朝明委員</p>	
	その他	<p>【オブザーバー】</p> <p><input type="checkbox"/>原 辰幸</p>	
事務局	武田事務局長、奥田事務局次長、日比主任、宮本主任		
傍聴者	1 人		
議 題	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスの利用状況について【資料 1、5】</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスのダイヤ改正等について【資料 2、6、7】</p> <p>②地域公共交通確保維持改善事業 (地域間幹線系統) 平成 30 年度事業評価案について【資料 3】</p> <p>③地域公共交通確保維持改善事業 (地域内フィーダー系統) 平成 30 年度事業評価案について【資料 4】</p> <p>(3) その他</p> <p>①次回協議会の開催日程について</p> <p>②その他</p>		

	<p>3. 閉会</p>
<p>会議結果要旨</p>	<p>1. 開会 事務局より開会の宣言があった。 近畿日本鉄道株式会社より参画の森本委員に代わり、同社総合企画本部計画部課長 山本 恒平 氏が、一般社団法人京都府タクシー協会より参画の坪倉委員に代わり、専務理事 足立 高広 氏が新たに委員として参画した旨を報告した。</p> <p>2. 議事 議長から運営内規に基づき、会議録の署名委員として福本委員を指名した。</p> <p>(1) 報告事項 ①木津川市コミュニティバスの利用状況について 資料 1 に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p>(2) 協議事項 ①木津川市コミュニティバスのダイヤ改正等について 資料 2、6、7 に基づき、事務局から提案があり、承認した。 ②地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）平成 30 年度事業評価案について 資料 3 に基づき、事務局から提案があり、承認した。 ③地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）平成 30 年度事業評価案について 資料 4 に基づき、事務局から提案があり、承認した。</p> <p>(3) その他 ①次回協議会の日程について 後日通知することとした。</p> <p>5. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p> <p>◎議長 ○委員 →事務局</p>	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事 (1) 報告事項 ①木津川市コミュニティバスの利用状況について 【配布資料】資料 1 木津川市コミュニティバス利用実績 資料 5 日別利用者比較表（11月） 【主な意見・質疑等】 ○：平成 30 年 11 月の利用者が著しく減少しており、事務局で分析を行っているが、何が主な要因になるのか。 →：平成 29 年度は木津川市内で「第 53 回京都非公開文化財特別開扉」が開催され、鹿背山方面に運行するきのつバス木一 2 及び当尾線の観光利用が増加しているが、平成 30 年度は同事業の実施がなかったため、利用者が減少する形となった。 ○：平成 29 年度はイベント効果により利用者が増えたということか。また、本年度は加茂地域で木津川アートが実施されているが、当尾線が減少している理由は。</p>

→：平成29年は例年と比較し、11月の利用者が多く、イベントの実施効果と考えている。また、本年度の木津川アートは加茂町瓶原地域で実施されており、観光動態の分析としては瓶原地域での移動に留まり、当尾地域への波及効果がなかった。

○：昨年11月の「秋の社寺秘宝秘仏特別開扉」の影響はなかったのか。

→：平成29年11月に開催された「第53回京都非公開文化財特別開扉」は朝日新聞が特別協力するなど、全国的な規模での催しであり、その影響で鹿背山や当尾への利用が多かった。平成30年11月にも「秋の社寺秘宝秘仏特別開扉」が開催されたが、規模的には小さいものであり、京都非公開文化財特別開扉と比較すると、効果が小さかった。

○：きのつバス木ー3（木津川台住宅～高の原駅）は、特別公開の影響はないと思うが、昨年同様に利用者が減少している理由は。

→：木津川台在住者を含め、様々な方に聞き取りをした結果、木津川台の北側にある精華大通りを運行する路線バスの充実に伴い、コミュニティバスから路線バスの利用に置き換わっていると伺っている。併せて、木津川台全体の人口は増加傾向ではなく、利用者減の要因と考えている。

○：イベント時には観光協会や市観光商工課と連携しているのか。

→：観光事業やイベントが実施される際は、観光協会や観光商工課から情報提供を受け、公共交通だよりに掲載を行っている。また、観光だけでなく、確定申告時のバス利用も掲載しており、様々な市の事業についてバスを利用して移動していただけるよう、引き続き掲載を行うとともに、内容の充実を図っていく。

○：今回は11月の分析を行っているが、9月についてもきのつバス利用者が大幅に減少しており、利用が変化する要因があったのではないかと。複数月での分析を進めれば、別の要因が発見される可能性があり、引き続き分析を続けてほしい。

◎：災害や気象の影響を除き、全国的には公共交通の利用は増加基調に変化しており、

減少路線は十分なケアが必要である。また、公共交通全体として利用者が増加しているのであればコミュニティバスの目的を達しているとも考えられるため、路線バスの動向を含めて分析してみたらどうか。

○：公共機関やスーパー、病院等と連携して、施設利用者の帰りのバス運賃を半額にするなど、利用促進のための社会実験を検討したらどうか。

◎：社会実験や新しい試みについて、協議会で議論や検討していくことも必要。

○：潜在的な利用者は、運賃の値下げにより利用できるのではないかと。

◎：料金によって利用者が大きく変化することは、実際には起こらない方が多いが、前向きに様々な取組みを実施していることが、普段利用されない方の乗るきっかけになる。

(2) 協議事項

①木津川市コミュニティバスのダイヤ改正等について

【配布資料】資料2 木津川市コミュニティバスのダイヤ改正等について

資料6 ダイヤ改正に係る課題・解決案等について

資料7 バス停ネーミングライツ 市内事業所・企業・商店等へのPR
実施報告について

【主な意見・質疑等】

◎：ダイヤの最終確定はいつまでか。
→：時刻表印刷の都合上、2月中旬までには確定したい。

○：高齢者や足の悪い方も考慮すると、木津駅の乗り換え時間は最低でも5分以上ほしい。
→：ご指摘の内容は、十分に理解している。全体のダイヤでは高の原駅や山田川駅での接続、木津駅～山田川駅間の運行間隔等も考慮しなくてはならないため、木津駅でのダイヤのみをあわせることは難しいが、何らかの形で可能かどうか検討させていただく。

◎：鉄道、コミュニティバスの接続は、どちらからどちらに対してのベクトルを合わせているのか。
→：きのつバス木ー1（梅谷～高の原駅）については、高の原方面行きのバスの運行時間を早めることによりJRからバスへの乗換時間の短縮を、梅谷方面行きのバスについては、山田川駅から木津駅に到着した際に、関西本線（加茂行き）・奈良線（京都線）・学研都市線に乗り換えがスムーズになるように到着時間に焦点を置いた。

◎：JRの場合は奈良方面に向かう電車に比べ、加茂・京都・京田辺方面を重視したということか。
→：奈良方面へは概ね1時間に6本運行しており、加茂・京都・京田辺方面に焦点を置いている。

◎：電車到着前にバスが到着するダイヤは、多くの場合において逆方向へ利用する人には不便になる。どの方向を重視してずらすのかについては、慎重に検討を行わないと反対の結果になる。
→：木津駅での到着と発車時間の調整を考えたが、全体の路線の中で時間が合わない所もあり、このようなダイヤ改正案になった。

◎：停車時間を長く出来ればさらに良いダイヤになる。ダイヤづくりのコンセプトの1つとして「ランデブーコンセプト」というものがあり、バスを主要駅に長い間停車することにより、乗車・降車の両方が利用できるという考え方で、ヨーロッパで一般的に採用されている。なお、ダイヤ改正の際は、どちらの方向を重視してダイヤを作ったのかを説明しないと議論が難しい。

○：JR木津駅からコミュニティバスへの乗り換えは改善されているのか。
→：山田川駅～木津駅間を可能な限り20分間隔で運行するため、どうしても電車の到着時間と合わない時間帯がある。ただし、以前は加茂方面からの関西本線は、木津駅到着からコミュニティバスへの乗り換えが最短で13分であったところ、ダイヤ改正案では11分での乗り換えになるなど、多少の改善はできていると考えている。今回のダイヤ改正は、先ほどの副会長の意見のとおり、バスから木津駅での乗り換えと山田川駅～木津駅間のパターンダイヤに重点を置いている。

○：利用者のことを考慮してダイヤ改正案を作成したことは嬉しい。高の原駅から木津川台住宅までの利用方法を考えていただいているが、山田川駅での乗換時間が短いため、バス事業者は乗り換えされる方の確認をしていただけるとありがたい。
→：木ー1、木ー3はパターンでの乗り換えとなっているため、バスの発着時間を配慮いただくよう事業者にはお願いしたい。

◎：鉄道事業者の方から何か意見はあるか。
○：弊社でも様々な場所で接続があり、木津川市だけを配慮してダイヤを編成することは難しいのが実状だが、木津川市のほうで鉄道を意識したダイヤにて運行していた

	<p>だくのはありがたい。</p> <p>◎：鉄道とバスの乗り継ぎについては、鉄道側がきれいなパターンダイヤにしていただと、バス側もダイヤを合わせやすいため、引き続きパターンダイヤでの運行をお願いしたい。</p> <p>○：山田川での乗り換えの際の料金はどうなるのか。</p> <p>→：1日フリー乗車券を利用いただければ、400円での乗り換えは可能だが、通常の場合はバスの路線が変わると料金は倍になる。なお、コミュニティバスの中で乗継券を導入しているのは神童子線のみである。</p> <p>◎：1日フリー乗車券の導入の際には、各路線の乗り継ぎを想定していたことであり、1回乗り換えと同様の料金にしていることは乗継割引に換わるものでも考えられる。</p> <p>②地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）平成30年度事業評価案について</p> <p>③地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）平成30年度事業評価案について</p> <p>【配布資料】</p> <p>資料3 地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）平成30年度事業評価案について</p> <p>資料4 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）平成30年度事業評価案について</p> <p>【主な意見・質疑等】</p> <p>※意見等なし</p> <p>(3)その他</p> <p>①次回協議会の日程について</p> <p>本年3月下旬を目途に事務局で調整し、改めて通知させていただく。</p> <p>②その他</p> <p>3. 閉 会</p> <p>以上。</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>なし。</p>